

議案第1号

地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

令和7年12月22日提出

東広島市地域公共交通会議
会長 塚井 誠人

1 提案理由

令和7年度に国の補助金である地域公共交通確保維持改善事業費補助金を受け
る事業に対し、事業評価（自己評価）を行い、国土交通大臣に報告するもの。

2 事業評価について

別紙「資料1」のとおり

地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価実施細目 別添 1・1-2 の記載方法

I 別添 1

1. 地域公共交通確保維持事業

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

令和 年 月 日

協議会名： _____

評価対象事業名： ☆

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 （特記事項を含む）
①	②	③	④	⑤	⑥

□記載方法□

- ・事業メニュー（ここでは地域間幹線・地域内フィーダー等の区分）ごとに様式に記入すること。
- ・評価を実施する単位につき一行を使用すること。
- ・行が不足する場合には、適宜行を追加すること。

☆ 評価対象事業名：

事業評価を実施する対象となる事業メニューの名称を記載する。

- ・地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
- ・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
- ・離島航路運営費等補助金
- ・離島航空路運航費等補助金 など

① 補助対象事業者等：

補助対象となる事業者等の名称を記載する。

なお、評価は運行系統等の別を実施することが基本であるが、生活交通確保維持改善計画において複数の運行系統等を包括して目標・効果が記載されている場合には、当該複数運行系統等を包括的に評価することができる。

② 事業概要：

系統名、航（空）路名、運行（航）区間等を記載する。

陸上交通に係る確保維持事業において車両減価償却費等国庫補助金又は公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けている場合及び離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合においては、その旨を記載する。

（注）それらの補助については、運行費（運営費）補助と一体として実施すれば足りる。ただし、地域の判断に応じて個別に評価を実施することを否定するものではない。

③ 前回の事業評価結果（又は類似事業）の反映状況：

当該事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したのかを記載する。

④ 事業実施の適切性：

生活交通確保維持改善計画に基づく事業が適切に実施されたかを、A, B, C の 3 段階で評価する。計画どおり実施されなかった場合には、理由等を明らかにする。

A：事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された

B：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった

C：事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった

⑤ 目標・効果達成状況：

生活交通確保維持改善計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成された（達成できる見込み）かを、設定した目標ごとに A, B, C の 3 段階で評価する。目標・効果が達成できなかった（達成できない見込み）場合には、理由等を分析の上明らかにする。

A：事業が計画に位置付けられた目標を達成した（する見込み）

B：事業が計画に位置付けられた目標を達成できていない点があった（一部達成できない見込み）

C：事業が計画に位置付けられた目標を達成できなかった（達成できない見込み）

- ・評価は、判定結果のみをもって一喜一憂すべき性質のものではなく、その結果を次年度以降の事業にどのように反映させ、改善に取り組むべきかという検討を行うことこそが重要である。

⑥ 事業の今後の改善点（特記事項を含む）：

地域公共交通確保維持事業を継続して実施する場合は、必要に応じて、上記の検証結果を踏まえて具体的な改善策を検討する。

「事業実施の適切性」や「目標・効果達成状況」において、「B」「C」となった項目を中心に、そのようになった要因を分析し、事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載する。改善策は、事業者の取組だけでなく、地域の取組について広く検討する。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。

また、「目標・効果達成状況」において評価の対象とならない事項を中心に、事業の実施に関して特記すべき事項がある場合には、その内容を簡潔に記載する。

併せて、より適切な目標設定について検討する。なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨を記載する。

令和8年1月 日

協議会名:東広島市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金(R6.10月~R7.9月)

利用者数

公的資金投入額

収支率

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
JRバス中国株式会社	市街地循環線(のんバス)の運行(2系統) (1)内回り (2)外回り	・「目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する」とされた点について、要因は「情報提供不足」と考え、目標を達成できるよう「情報提供の強化」を図り、のんバス協力店舗が6つ新規追加となった。	A 計画通り事業は適切に実施された。	<p>利用者数:○ (1)【目標】48,193人以上/年 【実績】50,749人/年 【目標比】105%</p> <p>公的資金投入額:× (1)【目標】9,107千円以下 【実績】9,682千円 【目標比】106%</p> <p>収支率:× (1)【目標】42.6%以上 【実績】37.7% 【目標比】89%</p> <p>利用者数:○ (2)【目標】58,500人以上/年 【実績】63,283人/年 【目標比】108%</p> <p>公的資金投入額:○ (2)【目標】7,263千円以下 【実績】6,755千円 【目標比】93%</p> <p>収支率:× (2)【目標】51.7%以上 【実績】50.3% 【目標比】97%</p>	<p>・路線全体で見ると、「年間利用者数」および「公的資金投入額」は目標を達成した一方で、「収支率」は未達成であった。また、路線全体では目標を達成した指標についても、系統別に見ると未達成の系統が存在した。目標達成に向けて、定期的に交通事業者との会議を開催し、利用実績のモニタリングを行うとともに、運行改善および利用促進策を検討・実施する体制を構築する。</p> <p>・「公的資金投入額」、「収支率」の目標未達については、運転手の人件費、燃料費などの高騰の影響を受けていると考えられる。人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。</p> <p>利用者数(JRバス(1)(2)) 【目標】106,693人以上/年 【実績】114,032人/年</p>
芸陽バス株式会社	市街地循環線(のんバス)の運行(2系統) (1)内回り (2)外回り			<p>利用者数:○ (1)【目標】48,855人以上/年 【実績】51,648人/年 【目標比】106%</p> <p>公的資金投入額:× (1)【目標】9,401千円以下 【実績】9,476千円 【目標比】101%</p> <p>収支率:× (1)【目標】57.4%以上 【実績】51.7% 【目標比】90%</p> <p>利用者数:○ (2)【目標】56,821人以上/年 【実績】64,141人/年 【目標比】113%</p> <p>公的資金投入額:○ (2)【目標】7,693千円以下 【実績】6,858千円 【目標比】89%</p> <p>収支率:× (2)【目標】68.6%以上 【実績】66.1% 【目標比】96%</p>	<p>公的資金投入額(JRバス(1)(2)) 【目標】16,370千円以下/年 【実績】16,437千円/年</p> <p>利用者数(芸陽バス(1)(2)) 【目標】105,676人以上/年 【実績】115,789人/年</p> <p>公的資金投入額(芸陽バス(1)(2)) 【目標】17,169千円以下/年 【実績】16,334千円/年</p>

令和8年1月 日

協議会名:東広島市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金(R6.10月~R7.9月)

利用者数

公的資金投入額

収支率

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)																				
JRバス中国株式会社	黒瀬地域におけるフィーダーバスの運行(6系統) (1) 渋・長貴~ショージ~黒瀬支所線 (2) 渋・長貴~黒瀬支所線 (3) 八畝ヶ畑~黒瀬支所線 (4) 洋国団地~黒瀬支所線 (5) 檜原~黒瀬支所線 (6) 上条~黒瀬支所線	・「目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する」との助言については、要因を「情報提供不足」と考えた。昨年度は目標達成まであとわずか(1便当たり平均利用者数+0.3人)であったことから、目標達成に向けて、地元運行協議会が主体となり、アンケート調査を実施し、地域住民の利用実態を把握し、これまで取り組んできた「情報提供の強化」を図った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	<table border="1"> <tr> <td>C</td> <td> 利用者数: × (1)【目標】1,126人以上/年 【実績】909人/年 【目標比】81% 公的資金投入額: × (1)【目標】1,729千円以下 【実績】2,268千円 【目標比】131% 収支率: × (1)【目標】12.6%以上 【実績】7.8% 【目標比】62% </td> </tr> <tr> <td>B</td> <td> 利用者数: × (2)【目標】492人以上/年 【実績】473人/年 【目標比】96% 公的資金投入額: ○ (2)【目標】1,330千円以下 【実績】1,116千円 【目標比】84% 収支率: × (2)【目標】11.0%以上 【実績】8.1% 【目標比】74% </td> </tr> <tr> <td>B</td> <td> 利用者数: × (3)【目標】341人以上/年 【実績】278人/年 【目標比】82% 公的資金投入額: ○ (3)【目標】1,241千円以下 【実績】900千円 【目標比】73% 収支率: × (3)【目標】10.1%以上 【実績】6.5% 【目標比】64% </td> </tr> <tr> <td>B</td> <td> 利用者数: ○ (4)【目標】744人以上/年 【実績】806人/年 【目標比】108% 公的資金投入額: ○ (4)【目標】2,161千円以下 【実績】1,054千円 【目標比】49% 収支率: × (4)【目標】15.7%以上 【実績】13.0% 【目標比】83% </td> </tr> <tr> <td>B</td> <td> 利用者数: ○ (5)【目標】1,425人以上/年 【実績】1,658人/年 【目標比】116% 公的資金投入額: ○ (5)【目標】2,459千円以下 【実績】1,845千円 【目標比】75% 収支率: × (5)【目標】16.8%以上 【実績】14.7% 【目標比】88% </td> </tr> <tr> <td>B</td> <td> 利用者数: ○ (6)【目標】841人以上/年 【実績】1,150人/年 【目標比】137% 公的資金投入額: ○ (6)【目標】2,665千円以下 【実績】2,198千円 【目標比】82% 収支率: × (6)【目標】9.8%以上 【実績】9.7% 【目標比】99% </td> </tr> </table>	C	利用者数: × (1)【目標】1,126人以上/年 【実績】909人/年 【目標比】81% 公的資金投入額: × (1)【目標】1,729千円以下 【実績】2,268千円 【目標比】131% 収支率: × (1)【目標】12.6%以上 【実績】7.8% 【目標比】62%	B	利用者数: × (2)【目標】492人以上/年 【実績】473人/年 【目標比】96% 公的資金投入額: ○ (2)【目標】1,330千円以下 【実績】1,116千円 【目標比】84% 収支率: × (2)【目標】11.0%以上 【実績】8.1% 【目標比】74%	B	利用者数: × (3)【目標】341人以上/年 【実績】278人/年 【目標比】82% 公的資金投入額: ○ (3)【目標】1,241千円以下 【実績】900千円 【目標比】73% 収支率: × (3)【目標】10.1%以上 【実績】6.5% 【目標比】64%	B	利用者数: ○ (4)【目標】744人以上/年 【実績】806人/年 【目標比】108% 公的資金投入額: ○ (4)【目標】2,161千円以下 【実績】1,054千円 【目標比】49% 収支率: × (4)【目標】15.7%以上 【実績】13.0% 【目標比】83%	B	利用者数: ○ (5)【目標】1,425人以上/年 【実績】1,658人/年 【目標比】116% 公的資金投入額: ○ (5)【目標】2,459千円以下 【実績】1,845千円 【目標比】75% 収支率: × (5)【目標】16.8%以上 【実績】14.7% 【目標比】88%	B	利用者数: ○ (6)【目標】841人以上/年 【実績】1,150人/年 【目標比】137% 公的資金投入額: ○ (6)【目標】2,665千円以下 【実績】2,198千円 【目標比】82% 収支率: × (6)【目標】9.8%以上 【実績】9.7% 【目標比】99%	<table border="1"> <tr> <td> 利用者数(事業全体) 【目標】4,969人以上/年 【実績】5,274人/年 </td> <td> 公的資金投入額(事業全体) 【目標】11,585千円以下/年 【実績】9,381千円/年 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ・路線全体で見ると、「年間利用者数」および「公的資金投入額」は目標を達成した一方で、「収支率」は未達成であった。また、目標を達成した指標についても系統別にみると未達成の系統があった。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ・「年間利用者数」は、目標達成に向けて、令和4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果、令和5年に実施したサロンでのヒアリング結果、令和7年8月にバス車内アンケート結果を基に、運行改善策を検討する。検討の際、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。 </td> </tr> <tr> <td colspan="2"> ・「公的資金投入額」、「収支率」の目標未達については、運転手の人件費、燃料費などの高騰の影響を受けていると考えられる。人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。 </td> </tr> </table>	利用者数(事業全体) 【目標】4,969人以上/年 【実績】5,274人/年	公的資金投入額(事業全体) 【目標】11,585千円以下/年 【実績】9,381千円/年	・路線全体で見ると、「年間利用者数」および「公的資金投入額」は目標を達成した一方で、「収支率」は未達成であった。また、目標を達成した指標についても系統別にみると未達成の系統があった。		・「年間利用者数」は、目標達成に向けて、令和4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果、令和5年に実施したサロンでのヒアリング結果、令和7年8月にバス車内アンケート結果を基に、運行改善策を検討する。検討の際、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。		・「公的資金投入額」、「収支率」の目標未達については、運転手の人件費、燃料費などの高騰の影響を受けていると考えられる。人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。	
C	利用者数: × (1)【目標】1,126人以上/年 【実績】909人/年 【目標比】81% 公的資金投入額: × (1)【目標】1,729千円以下 【実績】2,268千円 【目標比】131% 収支率: × (1)【目標】12.6%以上 【実績】7.8% 【目標比】62%																								
B	利用者数: × (2)【目標】492人以上/年 【実績】473人/年 【目標比】96% 公的資金投入額: ○ (2)【目標】1,330千円以下 【実績】1,116千円 【目標比】84% 収支率: × (2)【目標】11.0%以上 【実績】8.1% 【目標比】74%																								
B	利用者数: × (3)【目標】341人以上/年 【実績】278人/年 【目標比】82% 公的資金投入額: ○ (3)【目標】1,241千円以下 【実績】900千円 【目標比】73% 収支率: × (3)【目標】10.1%以上 【実績】6.5% 【目標比】64%																								
B	利用者数: ○ (4)【目標】744人以上/年 【実績】806人/年 【目標比】108% 公的資金投入額: ○ (4)【目標】2,161千円以下 【実績】1,054千円 【目標比】49% 収支率: × (4)【目標】15.7%以上 【実績】13.0% 【目標比】83%																								
B	利用者数: ○ (5)【目標】1,425人以上/年 【実績】1,658人/年 【目標比】116% 公的資金投入額: ○ (5)【目標】2,459千円以下 【実績】1,845千円 【目標比】75% 収支率: × (5)【目標】16.8%以上 【実績】14.7% 【目標比】88%																								
B	利用者数: ○ (6)【目標】841人以上/年 【実績】1,150人/年 【目標比】137% 公的資金投入額: ○ (6)【目標】2,665千円以下 【実績】2,198千円 【目標比】82% 収支率: × (6)【目標】9.8%以上 【実績】9.7% 【目標比】99%																								
利用者数(事業全体) 【目標】4,969人以上/年 【実績】5,274人/年	公的資金投入額(事業全体) 【目標】11,585千円以下/年 【実績】9,381千円/年																								
・路線全体で見ると、「年間利用者数」および「公的資金投入額」は目標を達成した一方で、「収支率」は未達成であった。また、目標を達成した指標についても系統別にみると未達成の系統があった。																									
・「年間利用者数」は、目標達成に向けて、令和4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果、令和5年に実施したサロンでのヒアリング結果、令和7年8月にバス車内アンケート結果を基に、運行改善策を検討する。検討の際、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。																									
・「公的資金投入額」、「収支率」の目標未達については、運転手の人件費、燃料費などの高騰の影響を受けていると考えられる。人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。																									

令和8年1月 日

協議会名:東広島市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金(R6.10月~R7.9月)

利用者数
公的資金投入額
収支率

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
有限会社白市交通	おまるめ山バスの運行(8系統) (1)大原中~あおぞらばん屋さん・門川内科医院 (2)大原東団地~なんぶ内科医院 (3)白市駅~大原中 (4)あおぞらばん屋さん・門川内科医院~大原東団地 (5)惣田地南~白市ショージ前 (6)扱和~白市駅 (7)白市駅~惣田地南 (8)白市駅~扱和	<p>・「新たに運行を開始した2事業(おまるめ山バス、志和ホテル交通)について、曜日や時間帯、乗降場所ごとの利用状況を分析し、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。」との助言については、利用実績をモニタリングし、運行改善、利用促進等について継続的に検討を行った。</p> <p>・運営協議会での検討により、商業施設での待ち時間短縮や運行経路の延伸により利用者増が見込めることから、令和8年2月から、商業施設での待ち時間等を考慮したダイヤの見直しや、利用増が見込める経路の延伸などの運行改善を予定している。</p>	A	<p>利用者数:○ (1)【目標】223人以上/年 【実績】345人/年 【目標比】155%</p> <p>公的資金投入額:○ (1)【目標】1,089千円以下 【実績】1,078千円 【目標比】99%</p> <p>収支率:○ (1)【目標】3.5%以上 【実績】5.4% 【目標比】155%</p>	<p>利用者数(事業全体) 【目標】1,840人以上/年 【実績】2,020人/年</p> <p>公的資金投入額(事業全体) 【目標】6,671千円以下/年 【実績】6,666千円/年</p> <p>・路線全体でみると、「年間利用者数」、「公的資金投入額」は目標を達成したが、「収支率」は未達成であった。また、目標を達成した指標についても系統別にみると未達成の系統があった。地元運営協議会主体で、利用実績のモニタリングを行うとともに、利用者、地域住民の声を集め、需要に即したダイヤ・経路の見直しを継続する必要がある。併せて、住民意見の収集手法の多様化と効果的な利用促進策の検討を進め、安定的な利用確保につなげる。</p> <p>・令和8年2月から商業施設での待ち時間等を考慮したダイヤの見直し、利用増が見込める経路の延伸などの運行改善を予定している。</p> <p>・「公的資金投入額」、「収支率」については、人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。</p>
				<p>利用者数:× (2)【目標】223人以上/年 【実績】199人/年 【目標比】89%</p> <p>公的資金投入額:× (2)【目標】429千円以下 【実績】437千円 【目標比】102%</p> <p>収支率:× (2)【目標】8.3%以上 【実績】7.5% 【目標比】91%</p>	
				<p>利用者数:× (3)【目標】223人以上/年 【実績】204人/年 【目標比】91%</p> <p>公的資金投入額:× (3)【目標】703千円以下 【実績】713千円 【目標比】101%</p> <p>収支率:× (3)【目標】5.3%以上 【実績】4.9% 【目標比】92%</p>	
				<p>利用者数:× (4)【目標】223人以上/年 【実績】202人/年 【目標比】91%</p> <p>公的資金投入額:× (4)【目標】896千円以下 【実績】909千円 【目標比】101%</p> <p>収支率:× (4)【目標】4.2%以上 【実績】3.8% 【目標比】91%</p>	
				<p>利用者数:○ (5)【目標】237人以上/年 【実績】359人/年 【目標比】151%</p> <p>公的資金投入額:○ (5)【目標】1,040千円以下 【実績】1,017千円 【目標比】98%</p> <p>収支率:○ (5)【目標】3.8%以上 【実績】5.9% 【目標比】156%</p>	
				<p>利用者数:× (6)【目標】237人以上/年 【実績】212人/年 【目標比】89%</p> <p>公的資金投入額:× (6)【目標】802千円以下 【実績】806千円 【目標比】100%</p> <p>収支率:× (6)【目標】4.9%以上 【実績】4.5% 【目標比】92%</p>	
				<p>利用者数:○ (7)【目標】237人以上/年 【実績】293人/年 【目標比】124%</p> <p>公的資金投入額:○ (7)【目標】986千円以下 【実績】975千円 【目標比】99%</p> <p>収支率:○ (7)【目標】4.0%以上 【実績】5.1% 【目標比】128%</p>	
				<p>利用者数:× (8)【目標】237人以上/年 【実績】206人/年 【目標比】87%</p> <p>公的資金投入額:× (8)【目標】726千円以下 【実績】731千円 【目標比】101%</p> <p>収支率:× (8)【目標】5.4%以上 【実績】4.8% 【目標比】89%</p>	

令和8年1月 日

協議会名:東広島市地域公共交通会議

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金(R6.10月~R7.9月)

利用者数

公的資金投入額

収支率

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>八本松タクシー</p>	<p>志和ホテル交通の運行(3系統) (1)志和堀地区 (2)東志和地区 (3)西志和地区</p>	<p>・「新たに運行を開始した2事業(おまるめ山バス、志和ホテル交通)について、曜日や時間帯、乗降場所ごとの利用状況を分析し、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。」との助言については、利用実績をモニタリングし、運行改善、利用促進等について継続的に検討を行った。</p> <p>・運行協議会が主体となり把握した住民ニーズに対応するため、次年度、予約受付時間の変更や乗降場所の追加・変更を予定している。</p>	<p>A 計画通り事業は適切に実施された。</p>	<p>利用者数: × (1)【目標】889人以上/年 【実績】81人/年 【目標比】9%</p> <p>B 公的資金投入額: ○ (1)【目標】3,189千円以下 【実績】935千円 【目標比】29%</p> <p>収支率: × (1)【目標】4.5%以上 【実績】2.3% 【目標比】51%</p> <p>利用者数: × (2)【目標】889人以上/年 【実績】113人/年 【目標比】13%</p> <p>B 公的資金投入額: ○ (2)【目標】3,189千円以下 【実績】1,025千円 【目標比】32%</p> <p>収支率: × (2)【目標】4.5%以上 【実績】2.7% 【目標比】60%</p> <p>利用者数: × (3)【目標】889人以上/年 【実績】216人/年 【目標比】24%</p> <p>B 公的資金投入額: ○ (3)【目標】3,189千円以下 【実績】1,115千円 【目標比】35%</p> <p>収支率: ○ (3)【目標】4.5%以上 【実績】4.8% 【目標比】107%</p>	<p>利用者数(事業全体) 【目標】2,667人以上/年 【実績】410人/年</p> <p>公的資金投入額(事業全体) 【目標】9,567千円以下/年 【実績】3,075千円/年</p> <p>・路線全体で見ると、「公的資金投入額」は目標を達成したが、「年間利用者数」、「収支率」は未達成であった。地元運行協議会主体で、利用実績のモニタリングを行うとともに、住民ニーズを踏まえた運行改善および利便性向上策を検討する。</p> <p>・次年度、住民ニーズに対応するため予約受付時間の変更や乗降場所の追加・変更を予定している。</p> <p>・「公的資金投入額」、「収支率」については、人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。</p>

事業実施と地域公共交通計画等との関連について

令和8年1月 日

協議会名:	東広島市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>東広島市は、広島県の中央に位置し、面積635.16km²、人口196,608人(R2国勢調査)の都市である。</p> <p>【西条地域】 西条地域は官公庁、大学、病院、商業施設などの様々な施設が集積しており、今後の本市の発展を牽引する地域として、JR西条駅を中心に都市機能強化に向けた取り組みを推進しており、こうした施設を結ぶ交通ネットワークの構築を進める必要がある。 また、中心市街地へは比較的近隣から来ている(来街者の約5割は3km圏内)ことを考慮し、中心市街地へのアクセス性や回遊性の向上のため、中心市街地の賑わい創出に寄与する公共交通として、平成29年10月から当該地域の主要施設を結ぶ循環バス(のんバス)を新たに運行している。</p> <p>【黒瀬地域】 黒瀬町は東広島市の南部に位置し、幹線道路を路線バスが運行しているものの、周辺の住宅地は交通不便地域となっている状況から、交通不便地域を解消し、地域住民の日常生活の移動手段の確保と、地域間幹線系統との接続による広域的な移動手段の確保を目的として、地域を運行主体とした、フィーダー系統を平成26年6月23日から運行している。</p> <p>【小谷地域】 小谷地域は、本市高屋町の東寄りに位置しており、住宅が点在する田園風景の広がる地区と、昭和61年代以降に造成された大型団地等の地区が混在している。 地域内の中央北寄りに白市駅があり、西条・広島方面の通勤・通学等において利用されている。幹線鉄道に接続する端末交通として、白市駅から北西部方面・広島空港方面に向けて路線バスが運行しているが、この路線以外に地域内を運行している路線バス等はない。 令和2年度より地域の移動手段確保について地域で検討を重ね、令和5年7月1日に住民自治組織を母体とした「小谷小学校区おまるめ山バス運営協議会」が発足し、地域を運行主体としたコミュニティ交通「おまるめ山バス」を令和5年10月から運行している。</p> <p>【志和地域】 志和地域は、本市の北西部に位置し、主要道路の沿道に農地と住宅が混在する集落が形成されており、また多くの工場が分散して立地している。地域内には、八本松・西条方面や広島市方面に向けた路線バスが運行されているが、居住地が広範囲に分散しているため、公共交通不便地域に居住する住民も多い。地域内の高齢化も進んでおり、バス停までの移動が難しくなっている高齢者等のモビリティ確保が課題となっている。 地域内の移動手段確保のため、令和4年度から本格的に地域で協議を行い、令和5年12月20日に「志和町地域交通運行協議会」が発足し、地域が運行主体となったコミュニティ交通「志和ホタル交通」を令和6年3月から運行している。「日常生活を支える交通」「持続可能な交通」のため、引き続き当該交通手段を確保・維持する必要がある。</p>

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価

東広島市地域公共交通協議会

地域公共交通計画(地域内フィーダー系統)の概要



東広島市の概要

- ・平成17年2月に1市5町が合併
- ・人口 196,608人(令和2年度国勢調査)
- ・面積 635.16km²

協議会(or交通会議)の構成員

広島県 東広島市 西日本旅客鉄道(株) 芸陽バス(株) JRバス中国(株) 広島電鉄(株) (有)白市交通 (有)八本松タクシー 広島県タクシー協会 市民代表 学識経験者 広島運輸支局 東広島警察署

概要

東広島市は、「人と環境にやさしく、誰もが自立して安全・快適・自由に移動でき、サービスを楽しむ未来都市」を目指している。市では、日常生活を支える交通としてのフィーダー系統に加え、都市の活力を促進する自動運転・隊列走行BRTなど、多様なモビリティによる利便性の高い移動サービスの提供を進め、新たな交通システムの構築を図っている。

フィーダー系統は市内4地域で運行している。官公庁や商業施設が集積し、今後の発展を牽引する中心的地域である西条地域では、中心市街地へのアクセス性や回遊性を向上させるため、平成29年10月から主要施設を結ぶ循環バスの運行を開始している。黒瀬地域では、幹線道路沿いには路線バスが運行しているものの、周辺の住宅地の一部は交通不便地域となっていた。日常生活の移動手段を確保するため、地域が運行主体となり、平成26年6月から運行開始している。小谷地域では、JR山陽本線や広島空港方面への路線バスが運行されており、地域外への移動環境は比較的良好であるが、地域内の移動環境は十分とは言えない状況であった。日常生活の移動手段を確保するため、地域が運行主体となり、令和5年10月から運行開始している。志和地域では、地域を循環する路線バスが運行されているものの、居住地が広範囲に分散しているため、バス路線から離れたエリアが交通不便地域となっていた。日常生活の移動手段を確保するため、地域が運行主体となり、令和6年3月から運行開始している。

協議会の主な取り組み

- ・交通空白地域におけるフィーダー交通の利用実績のモニタリング
- ・自動運転・隊列走行BRTの検討

協議会における検討

協議会の開催状況 4回開催

- ・令和6年11月29日 東広島市地域公共交通会議SNS運営ポリシーの策定、活用方法について、各種事業進捗報告について、西条エアポートリムジンの運賃改定について・令和6年12月26日(書面協議)地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について、各種事業進捗報告について、志和ホテル交通の運行改善について、西条エアポートリムジンの運賃改定について
- ・令和7年3月24日 令和7年度東広島市地域公共交通会議予算(案)について、東広島市都市交通計画(地域公共交通計画)の進捗管理について、各種事業進捗報告について
- ・令和7年6月25日 令和6年度東広島市地域公共交通会議決算(案)について、地域公共交通計画(東広島市都市交通計画)における令和8年事業年度地域公共交通確保維持事業に係る計画の策定について、小谷地域公共交通(おまるめ山バス)のダイヤ改正等の見直し検討について、市民参加型プラットフォーム(SNS)について

定量的な目標・効果

西条市街地循環バス(のんバス)

(目標)

- ・JRバス中国 (1)内回り 年間利用者数を48,193人以上とする(昨年度実績50,996人)
- ・JRバス中国 (1)内回り 公的資金投入額を9,107千円以下とする(昨年度実績9,059千円)
- ・JRバス中国 (1)内回り 収支率を42.6%以上とする(昨年度実績40.6%)
- ・JRバス中国 (2)外回り 年間利用者数を58,500人以上とする(昨年度実績63,023人)
- ・JRバス中国 (2)外回り 公的資金投入額を7,263千円以下とする(昨年度実績6,625千円)
- ・JRバス中国 (2)外回り 収支率を51.7%以上とする(昨年度実績51.2%)
- ・芸陽バス (1)内回り 年間利用者数を48,855人以上とする(昨年度実績50,753人)
- ・芸陽バス (1)内回り 公的資金投入額を9,401千円以下とする(昨年度実績9,071千円)
- ・芸陽バス (1)内回り 収支率を57.4%以上とする(昨年度実績58.2%)
- ・芸陽バス (2)外回り 年間利用者数を56,821人以上とする(昨年度実績60,417人)
- ・芸陽バス (2)外回り 公的資金投入額を7,693千円以下とする(昨年度実績7,301千円)
- ・芸陽バス (2)外回り 収支率を68.6%以上とする(昨年度実績69.8%)

(効果)

- ・ニーズの高い施設への公共交通でのアクセス性向上
- ・中心市街地の賑わい創出
- ・都市の健全な発展と秩序ある整備につながる交通網の構築

(目標 路線まとめ)

- 年間利用者数 212,369人以上とする(昨年度実績225,189人)
- 公的資金投入額 33,464千円以下とする(昨年度実績32,056千円)
- 収支率58.2%以上とする(昨年度実績53.0%)

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- ・昨年度と同様に協力店舗連携の拡大も含めて沿線協力店舗と連携し、周知活動、公共交通の利用促進を図った。
- ・協力店舗にゆめモール西条の6店舗が新規追加。

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- ・「目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する」とされた点について、要因は「情報提供不足」と考え、目標を達成できるよう「情報提供の強化」を図り、のんバス協力店舗が6つ新規追加となった。

実施した利用促進策

- ・保育園、小学校のイベントでの団体乗車。
- ・路線沿線の協力店舗との連携(乗車証明書を提示することにより、協力店舗の特典がうけられる。店舗数73+6店(図書館含む))。
- ・交通会議公式SNS(X,インスタグラム)へ協力店舗追加について投稿。

地域住民の意見の反映

- ・地元住民の意見を反映した運行計画となるよう、引き続き地域のニーズ把握に努めていく。

東広島市地域公共交通協議会 事業の評価

事業実施の適切性

西条市街地循環バス(のんバス)

・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金:計画どおり実施されている。協力店舗の拡大、特典連携、団体乗車の実施等により、公共交通の利用機会および認知度が向上し、利用者数は増加傾向にある。

目標・効果達成状況

(目標:路線まとめ)

	目標達成状況	備考
年間利用者数	229,821人で、目標212,369人以上を達成。	JRバス中国 全2系統中2系統が達成 芸陽バス 全2系統中2系統が達成
公的資金投入額	32,771千円で、目標33,464千円以下を達成。	JRバス中国 全2系統中1系統が達成 芸陽バス 全2系統中1系統が達成
収支率	50.4%で、目標58.2%以上を未達成。	JRバス中国 全2系統中2系統が未達成 芸陽バス 全2系統中2系統が未達成

(効果)

- ・ニーズの高い施設への公共交通でのアクセス性を向上できた。
- ・中心市街地の賑わいを創出できた。
- ・都市の健全な発展と秩序ある整備につながる交通網の構築につながっている。

(目標:系統別)

西条市街地循環バス(のんバス) JRバス中国 (1)内回り	(目標)年間利用者数は50,749人で、目標48,193人以上を達成した。
西条市街地循環バス(のんバス) JRバス中国 (1)内回り	(目標)公的資金投入額は9,682千円で、目標9,107千円以下を達成しなかった。
西条市街地循環バス(のんバス) JRバス中国 (1)内回り	(目標)収支率は37.7%で、目標42.6%以上を達成しなかった。
西条市街地循環バス(のんバス) JRバス中国 (2)外回り	(目標)年間利用者数は63,283人で、目標58,500人以上を達成した。
西条市街地循環バス(のんバス) JRバス中国 (2)外回り	(目標)公的資金投入額は6,755千円で、目標7,263千円以下を達成した。
西条市街地循環バス(のんバス) JRバス中国 (2)外回り	(目標)収支率は50.3%で、目標51.7%以上を達成しなかった。

目標・効果達成状況

西条市街地循環バス(のんバス) 続き

西条市街地循環バス(のんバス) 芸陽バス (1)内回り	(目標)年間利用者数は51,648人で、目標48,855人以上を達成した。
西条市街地循環バス(のんバス) 芸陽バス (1)内回り	(目標)公的資金投入額は9,476千円で、目標9,401千円以下を達成しなかった。
西条市街地循環バス(のんバス) 芸陽バス (1)内回り	(目標)収支率は51.7%で、目標57.4%以上を達成しなかった。
西条市街地循環バス(のんバス) 芸陽バス (2)外回り	(目標)年間利用者数は64,141人で、目標56,821人以上を達成した。
西条市街地循環バス(のんバス) 芸陽バス (2)外回り	(目標)公的資金投入額は6,858千円で、目標7,693千円以下を達成した。
西条市街地循環バス(のんバス) 芸陽バス (2)外回り	(目標)収支率は66.1%で、目標68.6%以上を達成しなかった。

事業の今後の改善点

西条市街地循環バス(のんバス)

- ・路線全体で見ると、「年間利用者数」および「公的資金投入額」は目標を達成した一方で、「収支率」は未達成であった。また、路線全体では目標を達成した指標についても、系統別に見ると未達成の系統が存在した。目標達成に向けて、定期的に交通事業者との会議を開催し、利用実績のモニタリングを行うとともに、運行改善および利用促進策を検討・実施する体制を構築する。
- ・「公的資金投入額」、「収支率」の目標未達については、運転手の人件費、燃料費などの高騰の影響を受けていると考えられる。人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。

定量的な目標・効果

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)

- (1) 渋・長貫～シヨージ～黒瀬支所線
- (2) 渋・長貫～黒瀬支所線
- (3) 八畝ヶ畑～黒瀬支所線
- (4) 洋国団地～黒瀬支所線
- (5) 檜原～黒瀬支所線
- (6) 上条～黒瀬支所線

(効果)

- ・交通不便地域の解消
- ・買物弱者支援
- ・医療施設への移動手段の確保
- ・自ら外出する機会が増えることによる、高齢者の健康増進、生きがい創出

(目標)

- ・ (1) 年間利用者数を1,126人以上とする(昨年度実績1,062人)
- ・ (1) 公的資金投入額を1,729千円以下とする(昨年度実績2,074千円)
- ・ (1) 収支率を12.6%以上とする(昨年度実績9.6%)
- ・ (2) 年間利用者数を492人以上とする(昨年度実績494人)
- ・ (2) 公的資金投入額を1,330千円以下とする(昨年度実績1,098千円)
- ・ (2) 収支率を11.0%以上とする(昨年度実績8.8%)
- ・ (3) 年間利用者数を341人以上とする(昨年度実績397人)
- ・ (3) 公的資金投入額を1,241千円以下とする(昨年度実績851千円)
- ・ (3) 収支率を10.1%以上とする(昨年度実績8.9%)
- ・ (4) 年間利用者数を744人以上とする(昨年度実績761人)
- ・ (4) 公的資金投入額を2,161千円以下とする(昨年度実績979千円)
- ・ (4) 収支率を15.7%以上とする(昨年度実績13.2%)
- ・ (5) 年間利用者数を1,425人以上とする(昨年度実績1,475人)
- ・ (5) 公的資金投入額を2,459千円以下とする(昨年度実績1,731千円)
- ・ (5) 収支率を16.8%以上とする(昨年度実績14.1%)
- ・ (6) 年間利用者数を841人以上とする(昨年度実績1,061人)
- ・ (6) 公的資金投入額を2,665千円以下とする(昨年度実績2,165千円)
- ・ (6) 収支率を9.8%以上とする(昨年度実績9.3%)

(目標 路線まとめ)

- 年間利用者数 4,969人以上とする(昨年度実績5,250人)
- 公的資金投入額 11,585千円以下とする(昨年度実績6,969千円)
- 収支率 12.8%以上とする(昨年度実績10.7%)

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- ・令和4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果、令和5年度に実施したサロンでのヒアリング結果を基に、運行改善策を検討する等、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行った。
- ・令和7年8月にバス車内アンケートを実施し、利用ニーズを把握した。

実施した利用促進策

- ・地元運行協議会が主体となり、利用促進に努めた。
- ・黒瀬さくらバスが住民にとって身近な移動手段となるよう、地元イベントにおいて車両展示やフォトコンテスト作品展示等を実施した。
 - －令和6年10月の「黒瀬健康福祉まつり」では、バス展示、車内見学、フォトコンテスト作品展示を実施
 - －令和6年11月の「黒瀬文化展」では、フォトコンテスト作品を展示

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- ・「目標が達成できなかった取組について、要因を分析し、引き続き関係者と連携協働を図り、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待する」との助言については、要因を「情報提供不足」と考えた。昨年度は目標達成まであとわずか(1便当たり平均利用者数+0.3人)であったことから、目標達成に向けて、地元運行協議会が主体となり、アンケート調査を実施し、地域住民の利用実態を把握し、これまで取り組んできた「情報提供の強化」を図った。

地域住民の意見の反映

- ・地元運行協議会が、地域住民の意見収集、運行への反映
 - －令和7年1月の役員会で、次年度の事業計画を検討
 - －令和7年4月の総会にて、R6事業実績、収支報告、R7事業計画、収支計画、利用実績の確認等を実施
 - －令和7年7月の役員会にて交通結節点の供用開始に伴うダイヤ改正の是非について協議
- ・令和7年8月にバス車内にて、アンケート調査を実施し、利用目的、利用状況、交通結節点の利用予定などを把握

東広島市地域公共交通協議会 事業の評価

事業実施の適切性

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)

・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金:計画どおり実施されている。イベント実施による認知度向上、周知活動の継続等により、公共交通への理解が深まり、利用者数は微増傾向にある。

目標・効果達成状況

(目標:路線まとめ)

	目標達成状況	備考
年間利用者数	5,274人で、目標4,969人以上を達成。	全6系統中3系統が達成
公的資金投入額	9,381千円で、目標11,585千円以下を達成。	全6系統中5系統が達成
収支率	10.2%で、目標12.8%以上を未達成。	全6系統中6系統が未達成

(効果)

- ・交通不便地域の解消につながっている。
- ・医療施設への移動手段を確保することができる。
- ・買物弱者への支援として有効に機能している。
- ・外出機会の増加により、高齢者の健康増進および生きがい創出につながっている。

(目標:系統別)

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)

(目標)年間利用者数は909人で、目標1,126人以上を達成しなかった。

(1) 渋・長貫～ショージ～黒瀬支所線

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)

(目標)公的資金投入額は2,268千円で、目標1,729千円以下を達成しなかった。

(1) 渋・長貫～ショージ～黒瀬支所線

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)

(目標)収支率は7.8%で、目標12.6%以上を達成しなかった。

(1) 渋・長貫～ショージ～黒瀬支所線

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)

(目標)年間利用者数は473人で、目標492人以上を達成しなかった。

(2) 渋・長貫～黒瀬支所線

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)

(目標)公的資金投入額は1,116千円で、目標1,330千円以下を達成した。

(2) 渋・長貫～黒瀬支所線

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)

(目標)収支率は8.1%で、目標11.0%以上を達成しなかった。

(2) 渋・長貫～黒瀬支所線

東広島市地域公共交通協議会 事業の評価

目標・効果達成状況

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)続き

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (3)八畝ヶ畑～黒瀬支所線	(目標)年間利用者数は278人で、目標341人以上を達成しなかった。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (3)八畝ヶ畑～黒瀬支所線	(目標)公的資金投入額は900千円で、目標1,241千円以下を達成した。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (3)八畝ヶ畑～黒瀬支所線	(目標)収支率は6.5%で、目標10.1%以上を達成しなかった。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (4)洋国団地～黒瀬支所線	(目標)年間利用者数は806人で、目標744人以上を達成した。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (4)洋国団地～黒瀬支所線	(目標)公的資金投入額は1,054千円で、目標2,161千円以下を達成した。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (4)洋国団地～黒瀬支所線	(目標)収支率は13.0%で、目標15.7%以上を達成しなかった。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (5)檜原～黒瀬支所線	(目標)年間利用者数は1,658人で、目標1,425人以上を達成した。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (5)檜原～黒瀬支所線	(目標)公的資金投入額は1,845千円で、目標2,459千円以下を達成した。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (5)檜原～黒瀬支所線	(目標)収支率は14.7%で、目標16.8%以上を達成しなかった。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (6)上条～黒瀬支所線	(目標)年間利用者数は1,150人で、目標841人以上を達成した。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (6)上条～黒瀬支所線	(目標)公的資金投入額は2,198千円で、目標2,665千円以下を達成した。
黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス) (6)上条～黒瀬支所線	(目標)収支率は9.7%で、目標9.8%以上を達成しなかった。

事業の今後の改善点

黒瀬地域内フィーダー系統(黒瀬さくらバス)

- ・路線全体で見ると、「年間利用者数」および「公的資金投入額」は目標を達成した一方で、「収支率」は未達成であった。また、目標を達成した指標についても系統別にみると未達成の系統があった。
- ・「年間利用者数」は、目標達成に向けて、令和4年度末に地元運行協議会で行ったアンケート結果、令和5年に実施したサロンでのヒアリング結果、令和7年8月にバス車内アンケート結果を基に、運行改善策を検討する。検討の際、引き続き地元運行協議会と連携を密にし、利用ニーズを反映した運行を行っていく。
- ・「公的資金投入額」、「収支率」の目標未達については、運転手の人件費、燃料費などの高騰の影響を受けていると考えられる。人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。

東広島市地域公共交通協議会 事業の評価

定量的な目標・効果

小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス)

- (1)大原中～あおぞらばん屋さん・門川内科医院
- (2)大原東団地～なんぶ内科医院
- (3)白市駅～大原中
- (4)あおぞらばん屋さん・門川内科医院～大原東団地
- (5)惣田地南～白市シヨージ前
- (6)扱和～白市駅
- (7)白市駅～惣田地南
- (8)白市駅～扱和

(目標) 昨年度実績は新系統化(令和6年9月～)に伴い、昨年度実績は1か月分のみ

- ・(1)年間利用者数を223人以上とする(昨年度実績26人/月)
- ・(1)公的資金投入額を1,089千円以下とする(昨年度実績59千円)
- ・(1)収支率を3.5%以上とする(昨年度実績6.6%)
- ・(2)年間利用者数を223人以上とする(昨年度実績8人)
- ・(2)公的資金投入額を429千円以下とする(昨年度実績25千円)
- ・(2)収支率を8.3%以上とする(昨年度実績4.9%)
- ・(3)年間利用者数を223人以上とする(昨年度実績12人)
- ・(3)公的資金投入額を703千円以下とする(昨年度実績40千円)
- ・(3)収支率を5.3%以上とする(昨年度実績4.6%)
- ・(4)年間利用者数を223人以上とする(昨年度実績7人)
- ・(4)公的資金投入額を896千円以下とする(昨年度実績52千円)
- ・(4)収支率を4.2%以上とする(昨年度実績2.1%)
- ・(5)年間利用者数を237人以上とする(昨年度実績28人)
- ・(5)公的資金投入額を1,040千円以下とする(昨年度実績61千円)
- ・(5)収支率を3.8%以上とする(昨年度実績6.9%)
- ・(6)年間利用者数を237人以上とする(昨年度実績14人)
- ・(6)公的資金投入額を802千円以下とする(昨年度実績49千円)
- ・(6)収支率を4.9%以上とする(昨年度実績4.4%)

(効果)

- ・交通不便地域の解消
- ・買物弱者支援
- ・医療施設への移動手段の確保
- ・自ら外出する機会が増えることによる、高齢者の健康増進、生きがい創出

- ・(7)年間利用者数を237人以上とする(昨年度実績23人)
- ・(7)公的資金投入額を986千円以下とする(昨年度実績58千円)
- ・(7)収支率を4.0%以上とする(昨年度実績6.0%)
- ・(8)年間利用者数を237人以上とする(昨年度実績7人)
- ・(8)公的資金投入額を726千円以下とする(昨年度実績45千円)
- ・(8)収支率を5.4%以上とする(昨年度実績2.4%)

(目標 路線まとめ)

- 年間利用者数 1,840人以上とする(昨年度実績1,980人)
- 公的資金投入額 6,671千円以下とする(昨年度実績9,887千円)
- 収支率 4.9%以上とする(昨年度実績4.2%)

東広島市地域公共交通協議会 事業の評価

小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス)

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- ・小谷小学校区おまるめ山バス運営協議会(以下、運営協議会)が、BIツールを用いて利用実績のモニタリングを行い、運行改善、利用促進等について継続的に検討を行った。
- ・2024年7月から9月にかけて、運営運行協議会が中心となり、目標達成に向けて住民同士が声を掛け合うことで、おまるめ山バスの利用促進を強化した。

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- ・「新たに運行を開始した2事業(おまるめ山バス、志和ホテル交通)について、曜日や時間帯、乗降場所ごとの利用状況を分析し、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。」との助言については、利用実績をモニタリングし、運行改善、利用促進等について継続的に検討を行った。
- ・運営協議会での検討により、商業施設での待ち時間短縮や運行経路の延伸により利用者増が見込めることから、令和8年2月から、商業施設での待ち時間等を考慮したダイヤの見直しや、利用者増が見込める経路の延伸などの運行改善を予定している。

実施した利用促進策

- ・運営協議会や地域が主体となり、小谷郵便局の窓ラッピング、区民運動会で「おまるめ山バスでレッツゴー」という競技の実施、地域の夏祭りで、うちわにおまるめ山バスの絵を描くイベントの実施、住民同士の利用の声掛けなど、利用促進を図った。

▽郵便局の窓ラッピング



地域の郵便局が窓を大きく使っておまるめくんの絵を描いてアピール。

▽区民運動会の競技 「おまるめ山バスでレッツゴー」



大人たちが段ボール製おまるめ山バスに乗って借り物競争！本物のおまるめ山バスもグラウンドに登場した。

地域住民の意見の反映

- ・月に1回の頻度で運営協議会の会長等と協議し、利用状況のモニタリング、地域住民の意見の集約を行い、運行改善や利用促進について検討を行った。
 - －令和6年12月区長会で、地域負担発生の可能性について説明
 - －令和7年4月総会で、本格運行開始前後の利用状況、地域負担の可能性について説明
 - －令和7年6月区長会で地域へ運行改善案を提示し、全世帯へアンケート実施
 - －令和7年8月区長部長会議で、運行改善案の承認

東広島市地域公共交通協議会 事業の評価

事業実施の適切性

小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス)

・地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金:計画どおり実施されている。利用実績の継続的な分析に基づく改善、地域行事での周知、住民同士の利用促進活動により、公共交通としての認識が浸透し、利用者数は増加傾向にある。

目標・効果達成状況

(目標:路線まとめ)

	目標達成状況	備考
年間利用者数	2,020人で、目標1,840人以上を達成。	全8系統中3系統が達成
公的資金投入額	6,666千円で、目標6,671千円以下を達成。	全8系統中3系統が達成
収支率	5.1%で、目標4.9%以上を達成。	全8系統中3系統が達成

(効果)

- ・交通不便地域の解消につながっている。
- ・買物弱者への支援として有効に機能している。
- ・医療施設への移動手段を確保することができている。
- ・外出機会の増加により、高齢者の健康増進および生きがい創出につながっている。

(目標:系統別)

小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (1)大原中～あおぞらぱん屋さん・門川内科医院	(目標)年間利用者数は345人で、目標223人以上を達成した。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (1)大原中～あおぞらぱん屋さん・門川内科医院	(目標)公的資金投入額は1,078千円で、目標1,089千円以下を達成した。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (1)大原中～あおぞらぱん屋さん・門川内科医院	(目標)収支率は5.4%で、目標3.5%以上を達成した。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (2)大原東団地～なんぶ内科医院	(目標)年間利用者数は199人で、目標223人以上を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (2)大原東団地～なんぶ内科医院	(目標)公的資金投入額は437千円で、目標429千円以下を達成しなかった。

東広島市地域公共交通協議会 事業の評価

目標・効果達成状況

小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス)続き

小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (2)大原東団地～なんぶ内科医院	(目標)収支率は7.5%で、目標8.3%以上を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (3)白市駅～大原中	(目標)年間利用者数は204人で、目標223人以上を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (3)白市駅～大原中	(目標)公的資金投入額は713千円で、目標703千円以下を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (3)白市駅～大原中	(目標)収支率は4.9%で、目標5.3%以上を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (4)あおぞらぱん屋さん・門川内科医院～大原東団地	(目標)年間利用者数は202人で、目標223人以上を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (4)あおぞらぱん屋さん・門川内科医院～大原東団地	(目標)公的資金投入額は909千円で、目標896千円以下を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (4)あおぞらぱん屋さん・門川内科医院～大原東団地	(目標)収支率は3.8%で、目標4.2%以上を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (5)惣田地南～白市ショージ前	(目標)年間利用者数は359人で、目標237人以上を達成した。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (5)惣田地南～白市ショージ前	(目標)公的資金投入額は1,017千円で、目標1,040千円以下を達成した。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (5)惣田地南～白市ショージ前	(目標)収支率は5.9%で、目標3.8%以上を達成した。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (6)扱和～白市駅	(目標)年間利用者数は212人で、目標237人以上を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (6)扱和～白市駅	(目標)公的資金投入額は806千円で、目標802千円以下を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (6)扱和～白市駅	(目標)収支率は4.5%で、目標4.9%以上を達成しなかった。

東広島市地域公共交通協議会 事業の評価

目標・効果達成状況

小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス)続き

小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (7)白市駅～惣田地南	(目標)年間利用者数は293人で、目標237人以上を達成した。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (7)白市駅～惣田地南	(目標)公的資金投入額は975千円で、目標986千円以下を達成した。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (7)白市駅～惣田地南	(目標)収支率は5.1%で、目標4.0%以上を達成した。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (8)白市駅～扱和	(目標)年間利用者数は206人で、目標237人以上を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (8)白市駅～扱和	(目標)公的資金投入額は731千円で、目標726千円以下を達成しなかった。
小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス) (8)白市駅～扱和	(目標)収支率は4.8%で、目標5.4%以上を達成しなかった。

事業の今後の改善点

小谷地域内フィーダー系統(おまるめ山バス)

- ・路線全体でみると、「年間利用者数」、「公的資金投入額」は目標を達成したが、「収支率」は未達成であった。また、目標を達成した指標についても系統別にみると未達成の系統があった。地元運営協議会主体で、利用実績のモニタリングを行うとともに、利用者、地域住民の声を集め、需要に即したダイヤ・経路の見直しを継続する必要がある。併せて、住民意見の収集手法の多様化と効果的な利用促進策の検討を進め、安定的な利用確保につなげる。
- ・令和8年2月から商業施設での待ち時間等を考慮したダイヤの見直し、利用増が見込める経路の延伸などの運行改善を予定している。
- ・「公的資金投入額」、「収支率」については、人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。

志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)

定量的な目標・効果

- (1)志和堀地区 (2)東志和地区 (3)西志和地区
(目標) 運行開始(令和6年3月~)に伴い、昨年度実績は7か月分のみ)
- ・(1)年間利用者数を889人以上とする(昨年度実績38人)
 - ・(1)公的資金投入額を3,189千円以下とする(昨年度実績557千円)
 - ・(1)収支率を4.5%以上とする(昨年度実績2.0%)
 - ・(2)年間利用者数を889人以上とする(昨年度実績72人)
 - ・(2)公的資金投入額を3,189千円以下とする(昨年度実績637千円)
 - ・(2)収支率を4.5%以上とする(昨年度実績2.3%)
 - ・(3)年間利用者数を889人以上とする(昨年度実績82人)
 - ・(3)公的資金投入額を3,189千円以下とする(昨年度実績549千円)
 - ・(3)収支率を4.5%以上とする(昨年度実績3.8%)

(効果)

- ・交通不便地域の解消
- ・買物弱者支援
- ・医療施設への移動手段の確保
- ・自ら外出する機会が増えることによる、高齢者の健康増進、生きがい創出

(目標 路線まとめ)

- 年間利用者数 2,667人以上とする(昨年度実績192人)
公的資金投入額 9,567千円以下とする(昨年度実績1,742千円)
収支率 4.5%以上とする(昨年度実績2.6%)

昨年度の自己評価に 対するフォローアップ

- ・志和町地域交通運行協議会(以下、運行協議会)が運行継続に向けて需要を掘り起こすため、運行協議会が実施したアンケート調査結果等をもとに、運行改善を検討し、令和7年2月に運行改善予定。
- ・併せて、運行協議会による移動に困っている人(免許返納者など)の個別訪問等の草の根的な利用促進策についても実施した。

昨年度の運輸局二次評価に 対するフォローアップ

- ・「新たに運行を開始した2事業(おまるめ山バス、志和ホテル交通)について、曜日や時間帯、乗降場所ごとの利用状況を分析し、より利便性の高い交通サービスが提供されることを期待します。」との助言については、利用実績をモニタリングし、運行改善、利用促進等について継続的に検討を行った。
- ・運行協議会が主体となり把握した住民ニーズに対応するため、次年度、予約受付時間の変更や乗降場所の追加・変更を予定している。

実施した利用促進策

- ・運行協議会が主体となり、免許返納者を中心とした地域住民への個別説明の実施。効果的な方法を模索し、試行錯誤している。

地域住民の意見の反映

- ・月に1回の頻度で運行協議会を開催し、利用状況のモニタリング、地域住民の意見の集約を行い、運行改善や利用促進について検討を行った。
- ・運行協議会は、自治会長・区長が参加する総会への事業説明、見直し等の合意形成を行っている
 - 一令和7年2月臨時総会で、運行見直し内容の共有、検討している利用促進策についての報告
 - 一令和7年6月の定期総会で、利用状況、利用促進策について報告

▽臨時総会での説明状況



東広島市地域公共交通協議会 事業の評価

事業実施の適切性

志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)

・計画どおり実施されている。利用状況分析に基づく運行改善検討、移動困難者への個別訪問等の利用促進の結果、利用者数は増加傾向にある。

目標・効果達成状況

(目標:路線まとめ)

	目標達成状況	備考
年間利用者数	410人で、目標2,667人以上を未達成。	全3系統中3系統が未達成
公的資金投入額	3,075千円で、目標9,567千円以下を達成。	全3系統中3系統が達成
収支率	3.4%で、目標4.5%以上を未達成。	全3系統中1系統が達成

(効果)

- ・交通不便地域の解消につながっている。
- ・買物弱者への支援として有効に機能している。
- ・医療施設への移動手段を確保することができている。
- ・外出機会の増加により、高齢者の健康増進および生きがい創出につながっている。

(目標:系統別)

志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)(1)志和堀地区	(目標)年間利用者数は81人で、目標889人以上を達成しなかった。
志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)(1)志和堀地区	(目標)公的資金投入額は935千円で、目標3,189千円以下を達成した。
志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)(1)志和堀地区	(目標)収支率は2.3%で、目標4.5%以上を達成しなかった。
志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)(2)東志和地区	(目標)年間利用者数は113人で、目標889人以上を達成しなかった。
志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)(2)東志和地区	(目標)公的資金投入額は1,025千円で、目標3,189千円以下を達成した。
志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)(2)東志和地区	(目標)収支率は2.7%で、目標4.5%以上を達成しなかった。
志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)(3)西志和地区	(目標)年間利用者数は216人で、目標889人以上を達成しなかった。
志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)(3)西志和地区	(目標)公的資金投入額は1,115千円で、目標3,189千円以下を達成した。
志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)(3)西志和地区	(目標)収支率は4.8%で、目標4.5%以上を達成した。

事業の今後の改善点

志和地域内フィーダー系統(志和ホテル交通)

- ・路線全体で見ると、「公的資金投入額」は目標を達成したが、「年間利用者数」、「収支率」は未達成であった。地元運行協議会主体で、利用実績のモニタリングを行うとともに、住民ニーズを踏まえた運行改善および利便性向上策を検討する。
- ・次年度、住民ニーズに対応するため予約受付時間の変更や乗降場所の追加・変更を予定している。
- ・「公的資金投入額」、「収支率」については、人件費・物価変動等を考慮した目標設定等について検討を行う。

交通体系図 別紙



交通体系図 別紙

系統名: (1)内回り(青ルート)、(2)外回り(赤ルート)
運行形態: 4条路線、乗合バス型(定期)
運行日・便数: (1)内回り(青ルート)、(2)外回り(赤ルート)1日24便
運賃: 一律200円(小児割引、障害者等は100円、乳児は無料)

路線図

(バス停の凡例)

- ◎ バス停 (両ルート)
- バス停 (赤ルートのみ)

西条駅 バス停名

(矢印の凡例)

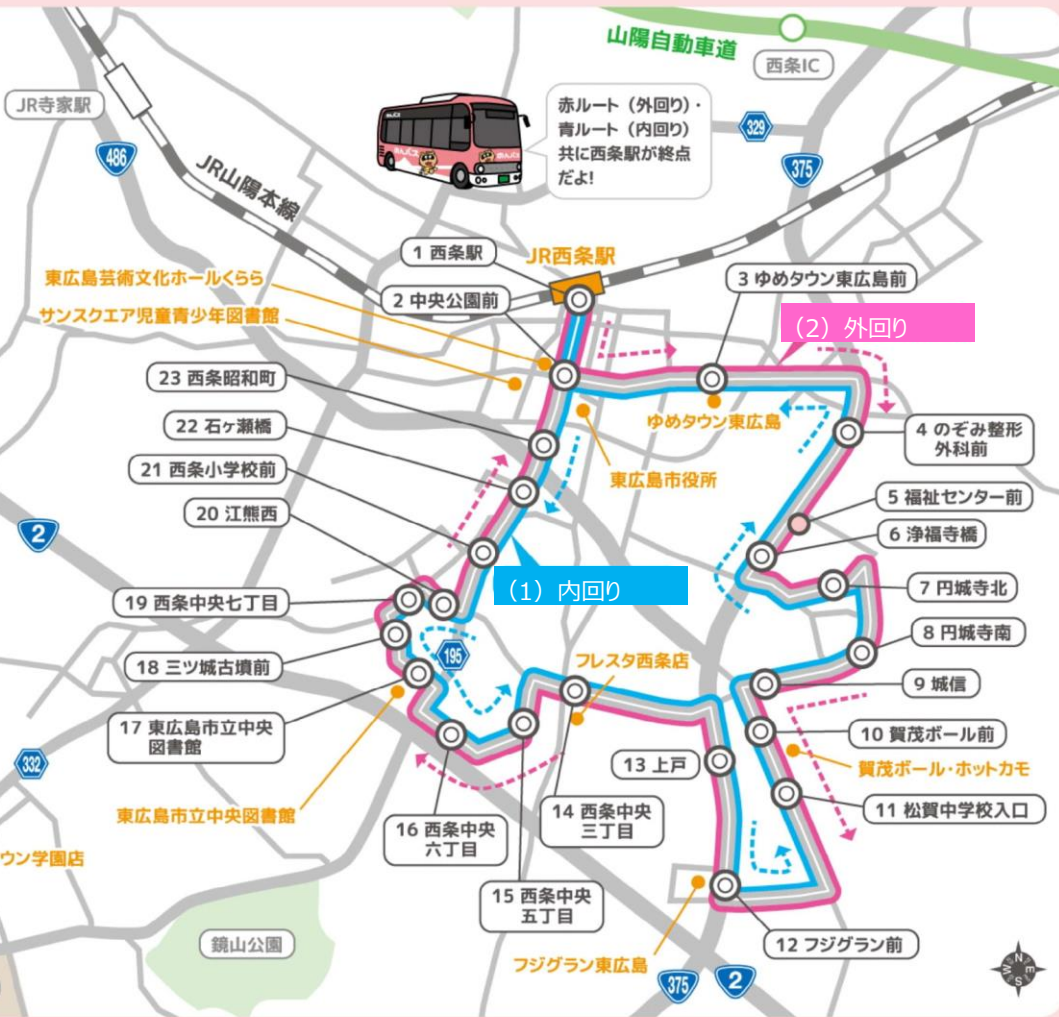
- > (1) 内回り
- > (2) 外回り

(2) 外回り 専用のバス停について

「5福祉センター前」バス停のみ、(2) 外回り 専用のバス停となっています。(1) 内回りご利用の場合は停車しませんので、「4のぞみ整形外科前」または「6浄福寺橋」でお降りください。



広島大学



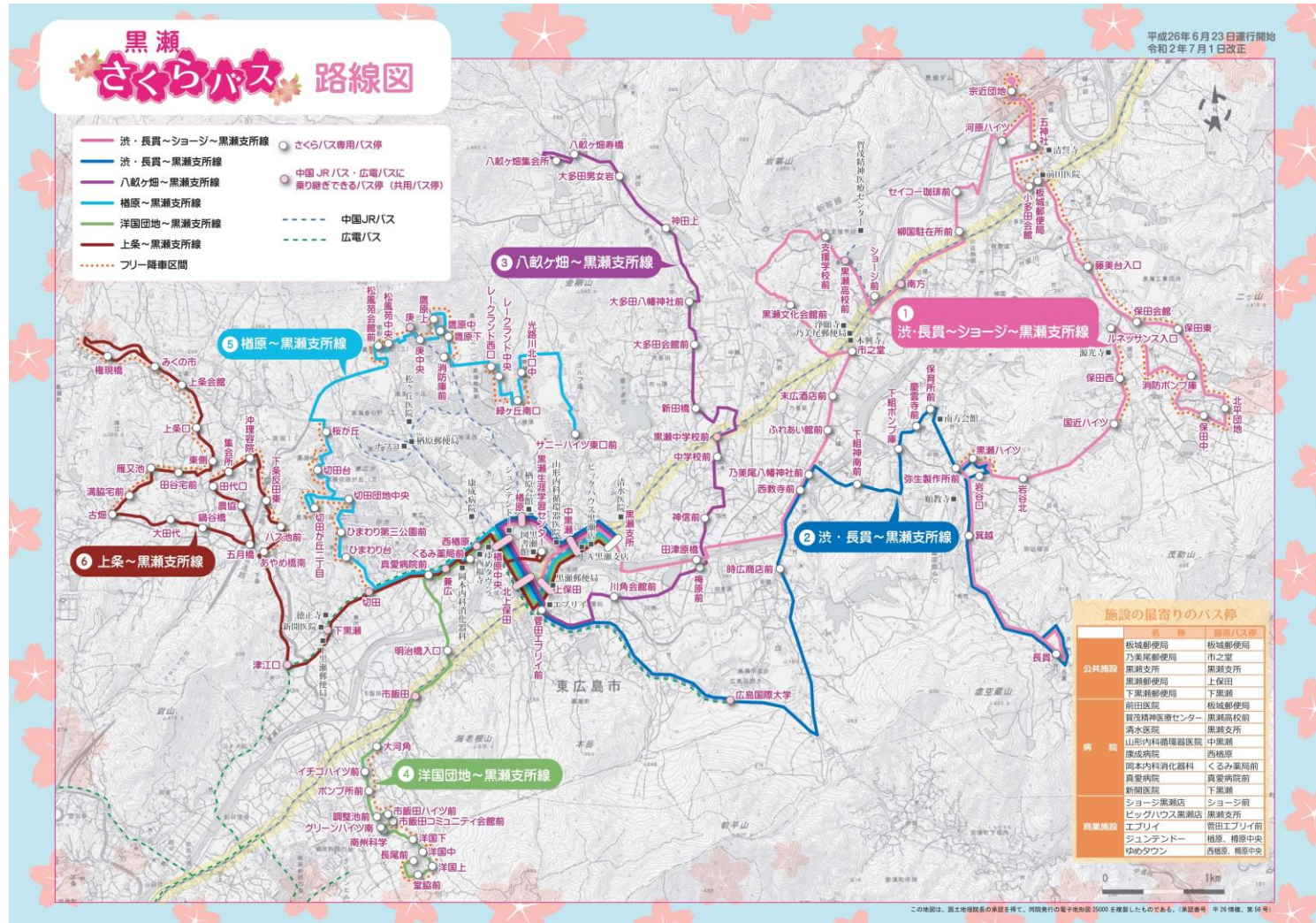
交通体系図 別紙

系統名: (1) 渋・長貫～ショージ～黒瀬支所線、(2) 渋・長貫～黒瀬支所線、(3) 八畝ヶ畑～黒瀬支所線、(4) 洋国団地～黒瀬支所線、(5) 榎原～黒瀬支所線、(6) 上条～黒瀬支所線

運行形態: 4条路線、乗合バス型(定期)

運行日・便数: 月曜日(4)(5)系統、火曜日(2)(6)系統、水曜日(1)系統、木曜日(3)(6)系統、金曜日(4)(5)系統 各系統1日4便

運賃: 一律200円(小児割引、障害者等は100円、乳児は無料)



この図は、国土情報課長の承認を得て、国土地理院の電子地図(縮尺25000)を複製したものである。(掲載番号 第1614号 第54号)

交通体系図 別紙

系統名: (1)大原中～あおぞらぱん屋さん・門川内科医院、(2)大原東団地～なんぶ内科医院、(3)白市駅～大原中、(4)あおぞらぱん屋さん・門川内科医院～大原東団地、(5)惣田地南～白市ショー前、(6)扱和～白市駅、(7)白市駅～惣田地南、(8)白市駅～扱和

運行形態: 4条路線、乗合バス型(定期)

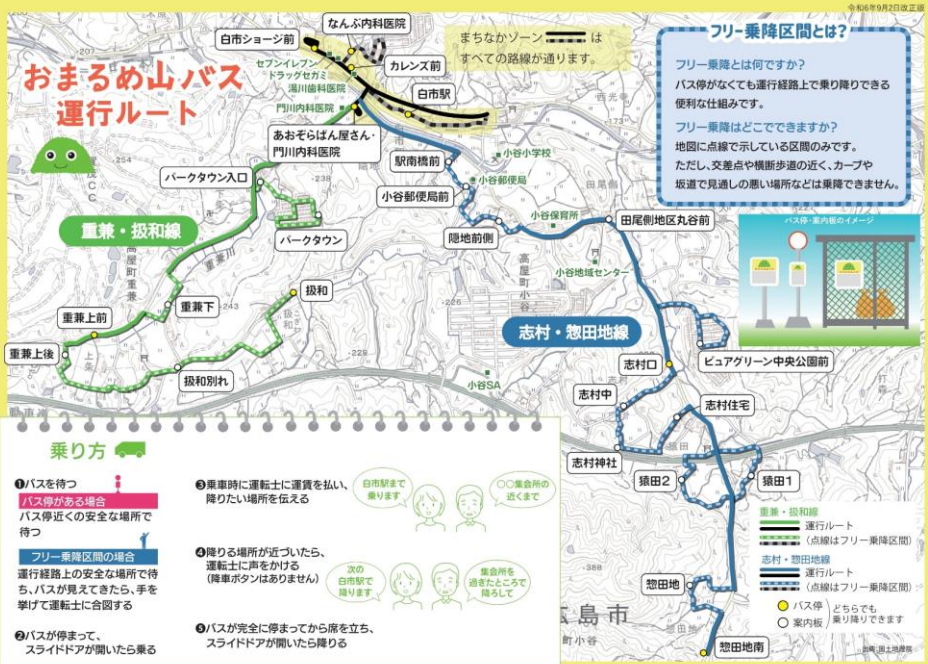
運行日・便数: 月・水曜日(1)(2)(3)(4)系統、火・金曜日(5)(6)(7)(8)系統 各系統1日2便

運賃: 一律200円(小児割引、障害者等は100円、乳児は無料)

月・水曜日運行



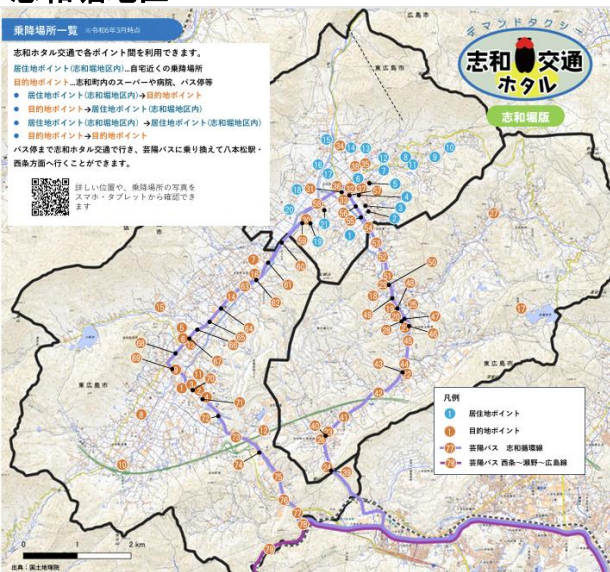
火・金曜日運行



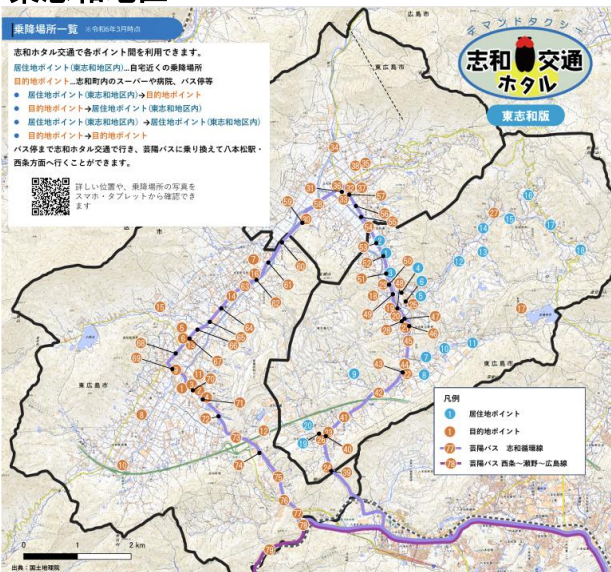
交通体系図 別紙

系統名: (1) 志和ホテル交通(志和堀地区)、(2) 志和ホテル交通(東志和地区)、(3) 志和ホテル交通(西志和地区)
運行形態: 区域デマンド型
運行日・便数: 志和堀地区:月・木曜日 東志和地区:火・金曜日 西志和地区:水・土曜日 各系統1日5便
運賃: 一律300円(小児割引、障害者等は150円、乳児は無料)

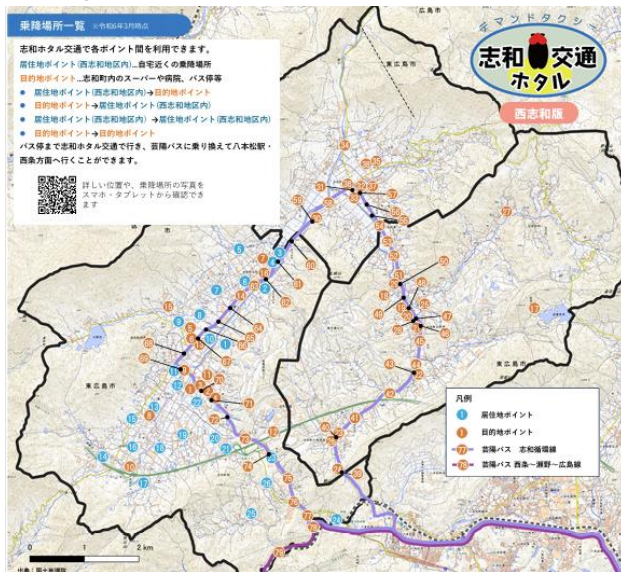
志和堀地区



東志和地区



西志和地区

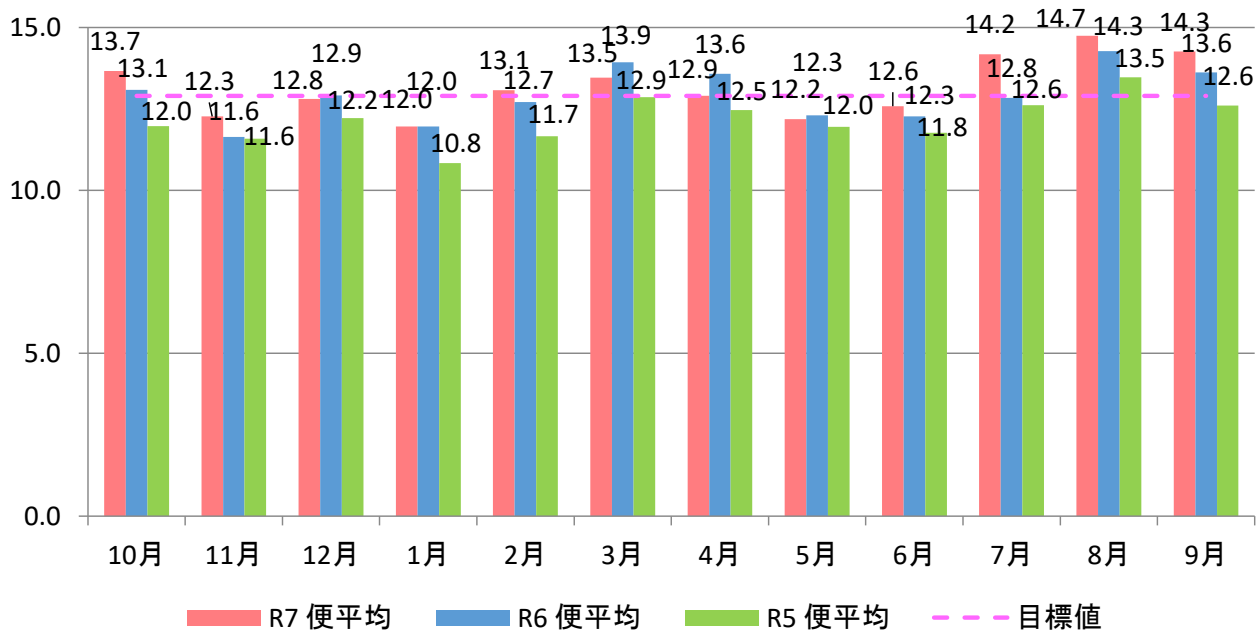


西条市街地循環バス「のんバス」利用状況

(単位:人)

	R7 便平均	R6 便平均	R5 便平均	R7 日平均	R6 日平均	R5 日平均
10月	13.7	13.1	12.0	660	630	574
11月	12.3	11.6	11.6	589	559	556
12月	12.8	12.9	12.2	615	624	587
1月	12.0	12.0	10.8	542	546	498
2月	13.1	12.7	11.7	628	610	560
3月	13.5	13.9	12.9	645	669	617
4月	12.9	13.6	12.5	619	652	598
5月	12.2	12.3	12.0	582	591	575
6月	12.6	12.3	11.8	604	589	565
7月	14.2	12.8	12.6	679	614	607
8月	14.7	14.3	13.5	708	680	647
9月	14.3	13.6	12.6	684	654	605
平均	13.2	12.9	12.2	630	618	582

R7フィーダー計画
目標値:12.9人/便

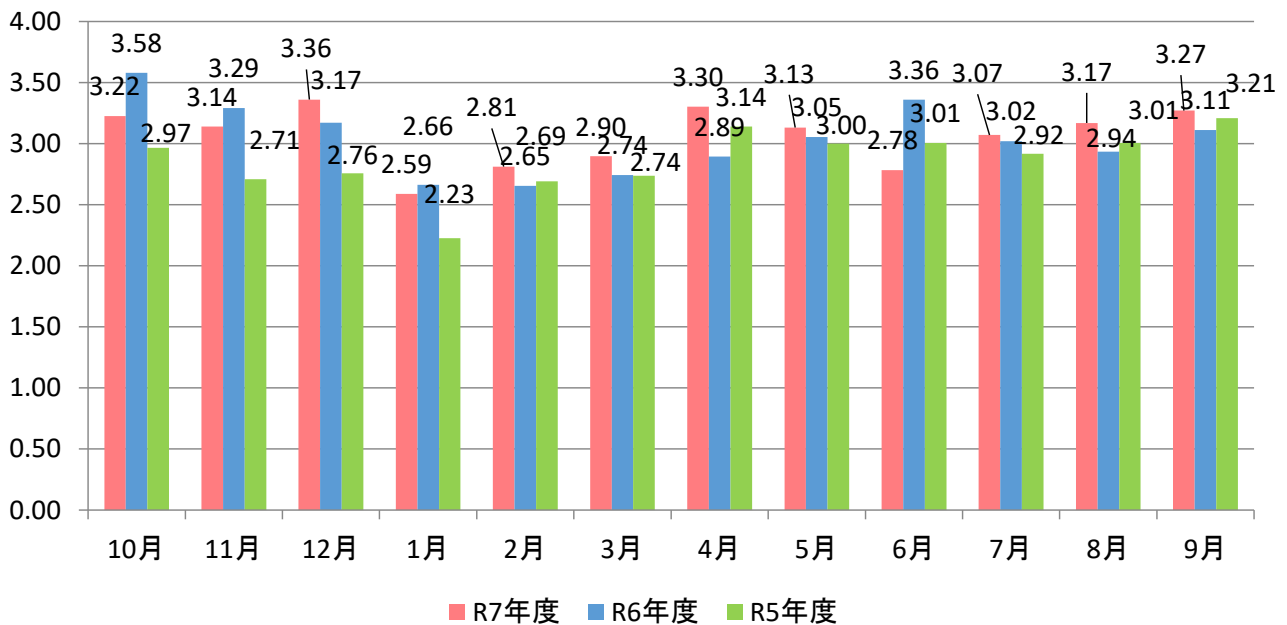


黒瀬さくらバス利用状況

(単位:人)

	便平均			日平均		
	R7年度	R6年度	R5年度	R7年度	R6年度	R5年度
10月	3.22	3.58	2.97	22.9	25.9	21.4
11月	3.14	3.29	2.71	22.6	23.1	19.5
12月	3.36	3.17	2.76	24.2	23.0	19.9
1月	2.59	2.66	2.23	18.5	19.1	16.3
2月	2.81	2.65	2.69	20.0	19.0	19.3
3月	2.90	2.74	2.74	20.9	20.3	19.4
4月	3.30	2.89	3.14	23.3	21.0	22.6
5月	3.13	3.05	3.00	22.6	21.5	21.6
6月	2.78	3.36	3.01	20.1	24.2	21.9
7月	3.07	3.02	2.92	21.8	21.4	21.0
8月	3.17	2.94	3.01	23.1	20.2	21.1
9月	3.27	3.11	3.21	23.6	22.3	23.1
平均	3.1	3.0	2.9	22.0	21.7	20.6

R7フィーダー計画
目標値:3.2人/便

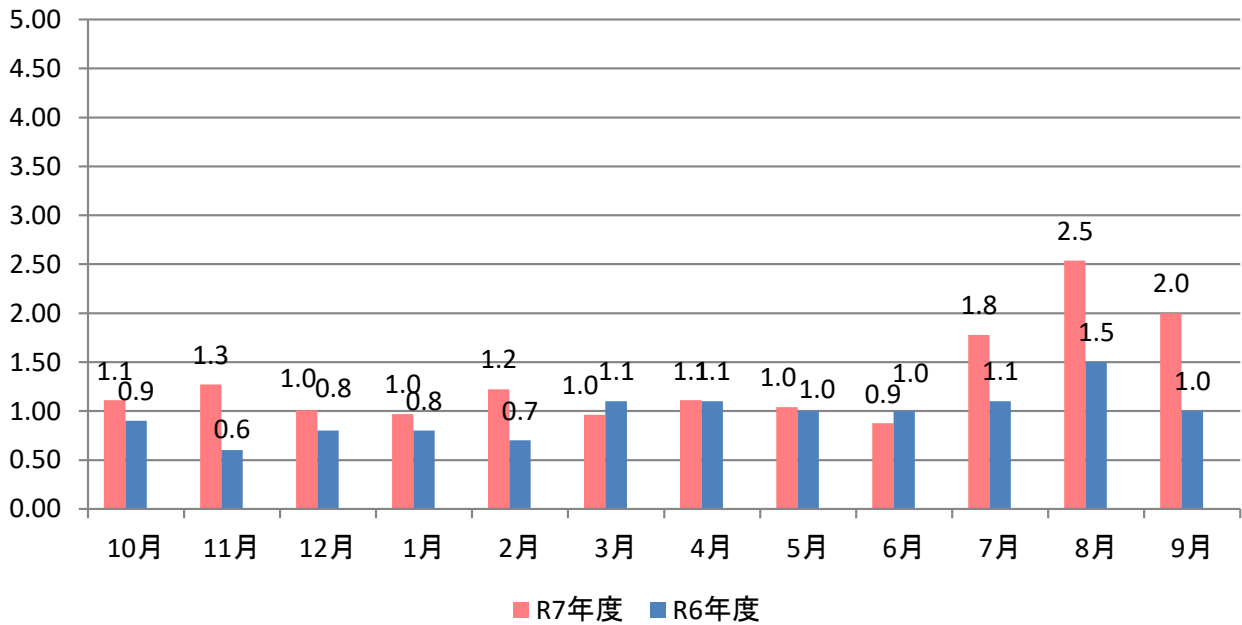


おまるめ山バス利用状況

(単位:人)

	便平均			日平均		
	R7年度	R6年度	R5年度	R7年度	R6年度	R5年度
10月	1.11	0.9	-	8.9	6.8	-
11月	1.27	0.6	-	10.2	4.0	-
12月	1.01	0.8	-	8.1	5.8	-
1月	0.97	0.8	-	7.8	6.2	-
2月	1.22	0.7	-	9.8	5.3	-
3月	0.96	1.1	-	7.7	8.0	-
4月	1.11	1.1	-	8.9	7.5	-
5月	1.04	1.0	-	8.3	7.0	-
6月	0.88	1.0	-	7.0	7.4	-
7月	1.78	1.1	-	14.2	7.7	-
8月	2.54	1.5	-	20.3	10.7	-
9月	2.00	1.0	-	16.0	8.3	-
平均	1.3	1.0	-	10.5	7.1	-

R7フィーダー計画
目標値:1.2人/便



志和ホテル交通利用状況

(単位:人)

	便平均			日平均		
	R7年度	R6年度	R5年度	R7年度	R6年度	R5年度
10月	1.2	-	-	0.8	-	-
11月	0.9	-	-	1.2	-	-
12月	0.8	-	-	1.2	-	-
1月	0.6	-	-	1.7	-	-
2月	0.4	-	-	2.4	-	-
3月	0.2	0.4	-	1.1	2.0	-
4月	0.3	0.3	-	1.5	1.3	-
5月	0.3	0.2	-	1.3	1.1	-
6月	0.2	0.2	-	0.8	0.9	-
7月	0.2	0.2	-	1.1	0.9	-
8月	0.4	0.1	-	2.0	0.6	-
9月	0.3	0.2	-	1.3	0.8	-
平均	0.3	0.2	-	1.3	1.1	-

R7フィーダー計画
目標値: 2.1人/便

